

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	滝川市立江陵中学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年5月10日(水)、8月17日(木)	研修参加人数	27人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺に係る現状と、自殺予防教育の必要性について ・自殺予防プログラムの概要と具体的な授業実践について ・「ほっと」、「心と身体のチェックリスト」等の活用について ・ピア・サポートを活用した援助希求的態度の育成について 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育の必要性について理解を深めることができた。 ・自殺予防プログラムのモデルプランを参考に、年間指導計画を見直すことができた。 		
研修等で使用した資料名	「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」(平成21年3月文部科学省) 「自殺予防教育の実施に向けて(その2)」(平成31年3月北海道教育委員会) 「自殺予防教育プログラム モデルプラン(年間指導計画例)～中学校編～」(令和元年3月北海道教育委員会) 『SOSの出し方に関する教育』を始めましょう！(令和2年10月北海道教育委員会) 「児童生徒の自殺予防に向けた取組の充実に向けて」(令和4年12月北海道教育委員会)		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)												
A 援助希求的態度の育成	○ 実践の概要(目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・誰かに相談する際の期待感と抵抗感、相談しやすい方法について理解させることを目指し、第1学年及び第2学年の特別活動の時間において、加配教員と学級担任が、「相談する場合」と「相談しない場合」のメリット、デメリット等について具体的な場面について、生徒に考えさせた内容をグループで話し合わせたり、「相談しない代わりにすること」について全体で交流させたりする活動を行った。 ・悩みを抱えている友人からの相談に対する抵抗感、相談しやすい会話の仕方について理解させることを目指し、第3学年の特別活動の時間において、加配教員と学級担任が、友人の様子から気付くトレーニングを行い、友人との関わり方について「最初の一言」と「促す一言」をペアで練習させたり、友人とのつながりをつくることの必要性について考えさせたりする活動を行った。 												
	○ 生徒の変容を促す工夫(授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など) <ul style="list-style-type: none"> ・誰かに相談する際の期待感や抵抗感を実感できるよう、実際に抱えている悩みについてワークシートに記入した上で、互いに相談を行う活動を取り入れた。 ・悩みを抱えている友人からの相談に対する抵抗感を理解し、相談しやすい会話の仕方について理解を深めることができるよう、ロールプレイを取り入れ、具体的な会話のトレーニングを取り入れた。 												
	○ 生徒の変容(アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容) <table border="1" data-bbox="938 1697 1385 1883"> <thead> <tr> <th></th> <th>1回目(7月)</th> <th>2回目(12月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第2学年1組</td> <td>3.3</td> <td>3.5(+0.2)</td> </tr> <tr> <td>第2学年2組</td> <td>3.3</td> <td>3.4(+0.1)</td> </tr> <tr> <td>第2学年3組</td> <td>3.1</td> <td>3.3(+0.1)</td> </tr> </tbody> </table> 【「ほっと」:「悩みを相談する」項目の得点】		1回目(7月)	2回目(12月)	第2学年1組	3.3	3.5(+0.2)	第2学年2組	3.3	3.4(+0.1)	第2学年3組	3.1	3.3(+0.1)
	1回目(7月)	2回目(12月)											
第2学年1組	3.3	3.5(+0.2)											
第2学年2組	3.3	3.4(+0.1)											
第2学年3組	3.1	3.3(+0.1)											
	○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・誰かに相談をされたら、その人の助けになれるような対応をしたい。 ・相談しにくいことや誰かに伝える時に勇気がある悩みもあるけれど、相談した方がよい理由や誰かに話す意味について理解することができた。 ※ 授業後の振り返りアンケートにおいて、「友人が悩んでいた時には、相談に乗りたいと思う」「悩んだ時には、誰かに相談したいと思う」と回答した生徒の割合が7割以上であった。												



【問題状況場面についての交流】



【関わり方の練習】

B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
 - ・自殺の兆候となる「こころの黄色信号」の内容、「こころの黄色信号」への対応について理解させることを目指し、第1学年保健体育科「心身の発達と心の健康」の単元において、保健体育科担当教諭が、「こころの黄色信号」が「身体の変化」、「感情」、「認知（考え方）」、「行動」、「人間関係」の5つの側面からとらえることができ、お互いに影響し合うことについて、スライド資料に基づいて説明し、自分や周りの人の「こころの黄色信号」に気付いた際の対応について、グループや全体で、考えさせる活動を行った。



【対応についての交流】

- 生徒の変容を促す工夫
 - ・自殺の兆候となる「こころの黄色信号」の内容、「こころの黄色信号」への対応について理解させることができるよう、自殺予防教育プログラム「私たちの大切な『いのち』を守るために」のスライド資料を活用し、生徒が自分自身の「こころの黄色信号」について気付くことができるようにするとともに、グループワークを行い、周りの人の「こころの黄色信号」についての気づきを促すよう工夫した。

- 生徒の変容
 - ・7月と12月に実施した「ほっと」において、自己統制（セルフコントロール力）の得点が第1学年の全学級で0.2～0.6ポイント増加するなど、衝動性を抑えて意思決定を行う力の向上が見られた。

	1回目 (7月)	2回目 (12月)
第1学年1組	49.6	50.2 (+0.6)
第1学年2組	45.6	45.8 (+0.2)
第1学年3組	52.3	52.6 (+0.3)

【「ほっと」：「自己統制」項目の得点】

- 生徒の感想
 - ・友人の「こころの黄色信号」に気付いた時は、真剣に話を聞き、助けたいと思った。
 - ・自分の「こころの黄色信号」に気付いた時は、誰かに相談することが大切だと思った。